



野鳥にはどんな鳥がいるの

日本には約550種が

野鳥は、おおまかに3つのグループに分けられます。一年中、日本にいるスズメやカラスなどのような「留鳥」。その季節になると、定期的に日本にやってくる「わたり鳥」。ときどき遠くから、まよいこんでくる「迷鳥」。これらは、合わせて約550種がいます。

「わたり鳥」は、さらに、2つのグループに分けられます。春から夏、日本でひなを育てるため南の国からわたってくる「夏鳥」。ツバメが代表です。北の国から、寒さをさけて日本わたってくる「冬鳥」。ハクチョウやガンやカモ、レンジャクなどです。

身近で、観察できる鳥

身近に見られる鳥は、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、トビ、モズ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、コサギ、カルガモ、ユリカモメ、ウミネコなどです。

野鳥の森とバードウォッチング

日本の各地に、野鳥の森が作られています。これらは、国、県や市が作ったもの、日本野鳥の会などの民間団体が整備したもの、などがあります。野外で野鳥を観察することを、「探鳥」、「バードウォッチング」などといいます。

野鳥の森に行けば、そこでよく見られる鳥と、その見分け方、鳴き声などの案内板もあります。探鳥会に参加すれば、案内をしてくれる人の説明で、ぐんと鳥の声や姿が見分けられるようになります。(監修・今泉 忠明)

